

3 歯と口の健康

(1) 施策体系図にある目標

○自分の歯と口の健康を守る市民を増やす。

(2) これまでの主な取組

共 助

- ・愛育委員が成人歯科検診の必要性の普及啓発や、8020 運動推進に協力しました。

公 助

- ・母子手帳交付時に妊婦歯科健診の紹介や受診勧奨を行い、妊娠期から歯と口の健康に対する意識を高めるよう努めました。
- ・乳児健診で歯科衛生士による歯科保健指導を実施し、むし歯予防について知識の普及を行いました。
- ・1 歳6か月児健診時の生活習慣から、むし歯罹患リスクが高い児を対象に2 歳児歯科検診を実施し、意識づけの強化を行いました。
- ・保育所（園）、幼稚園、認定こども園において歯に関する健康教育を実施し、歯と口の健康について意識づけを行いました。
- ・小中学校で、歯に関する指導や歯科健診、治療指示を行いました。
- ・6024 や 8020 を目指して、40 歳から 70 歳を対象に歯科検診を実施し、正しいブラッシング方法の普及啓発を行いました。また、定期的な歯科検診受診の必要性を受診勧奨通知や医療機関へのポスター掲示等により周知したり、歯科検診を通年で実施するなど、検診を受診しやすい環境づくりを行いました。
- ・高齢者が健康な歯と口を保てるよう、8020 運動の推進について、歯科医師会の協力を得ながら市民へ情報提供を行いました。

(3) 中間評価の結果

- ・1 歳6か月児、3 歳児のむし歯有病率は共に減少しており、目標に達しています。（図9）
- ・わかば世代の未処置歯ゼロの児童の割合は横ばいで、改善されていませんでした。
- ・のびる世代は、むし歯が1 歯未満の者の割合は増加となり目標に達していましたが、歯肉炎を有する者の割合は策定時の 21.0%から 33.0%に増加し、悪化となっていました。（図 10）

図9 1歳6ヶ月児健診時と3歳児健診時のう歯罹患率の比較

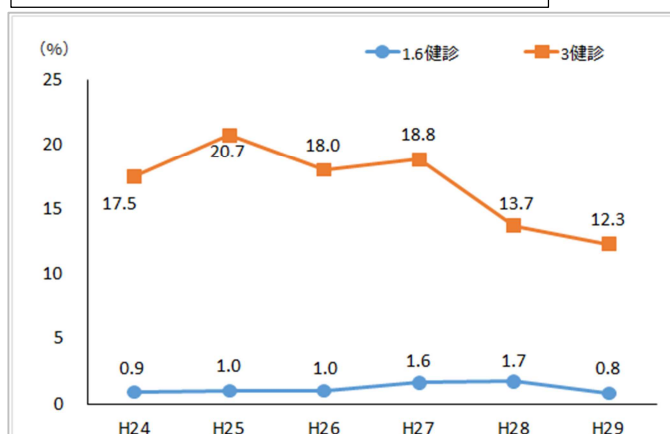
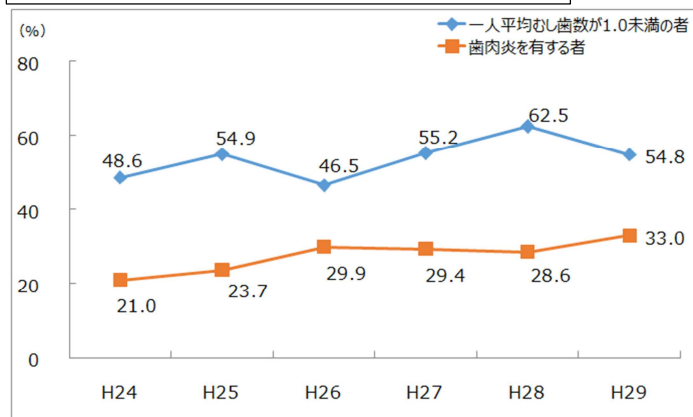


図 10 のびる世代の平均むし歯数が 1.0 未満の者と
歯肉炎を有する者の比較

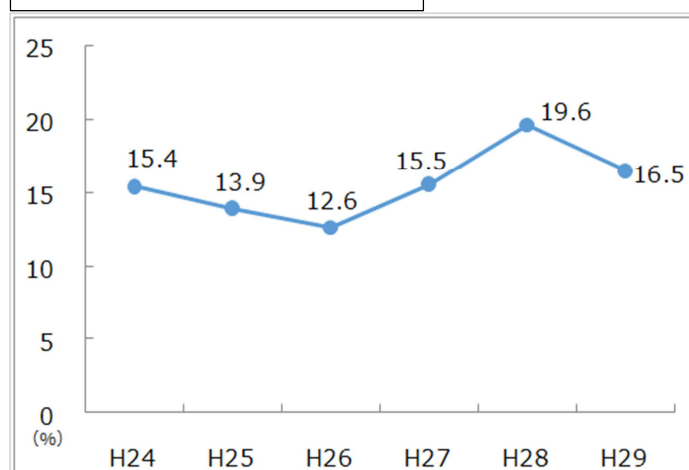


- 定期的な歯科検診受診者の割合は増加していますが、目標に達していません。
- むすぶ世代では進行した歯肉炎がある者の割合は 15.9%と増加していたため、目標に達していません。
- 40 歳で喪失歯ゼロの者の割合は男女共に減少していますが、目標に達していません。
- 6024 達成者の割合は 77.2%と増加し、目標の 70%に達しています。
- 口腔機能を維持している者の割合は、介護予防事業における基本チェックリストにて把握する予定としていましたが、実施方法の変更により、策定時データとの比較ができないため、評価方法を変更します。
- みのる世代で食べ物を食べるときに気になることがあると約半数の人が回答し、そのうち約 4 割は硬い物が食べにくいと回答していました。

(4) 今後の課題

- 妊婦歯科健診の受診率は、例年 15%～20%と横ばいです。妊娠期は特に歯周疾患やむし歯のリスクが高まることから受診率を向上させ、妊婦歯科健診を通じて、歯周疾患やむし歯予防、正しいブラッシング方法の普及が必要です。(図 11)

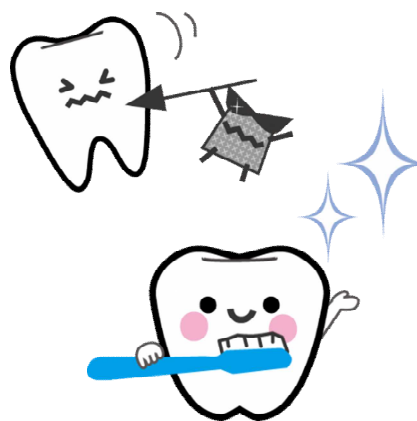
図 11 妊婦歯科健診受診率



- 1歳6か月児，3歳児のむし歯有病率は減少していますが，1歳6か月児から3歳児の間に大幅に増加している為，むし歯予防に関する正しい知識と技術の普及，定着が必要です。
- 症状が出る前の早期から検診を受診できるよう受診勧奨をさらに勧めていく必要があります。
- 口腔ケアの重要性について普及啓発を行い，かかりつけ歯科医による定期的な歯科検診を受けることを普及啓発する必要があります。
- 正しい歯磨き方法を身につけるとともに，歯肉炎や歯周病予防についても啓発する必要があります。
- 介護予防のために，嚥下や咀嚼といった口腔機能を維持するための情報を普及啓発する必要があります。

(5) 今後の方向性

- 妊婦歯科健診の受診勧奨に努めます。
- 乳幼児健診時に歯の健康に関する正しい知識と技術の普及を強化します。また，幼児期からかかりつけ医を持ち，定期的に歯科健診を受けるよう啓発します。
- 学校等で歯に関する健康教育を実施し，子どもの頃から歯の健康についての意識づけを行います。
- 健康まつりなどの機会に関係機関や団体等と連携して，虫歯予防や歯肉炎，歯周病予防，口腔機能維持の必要性を普及啓発します。
- かかりつけ歯科医を持ち，定期的に歯科検診を受けることを普及啓発します。
- 口腔機能を維持することの必要性を普及啓発するとともに，口腔機能の悪化を防ぐため関係機関との連携に努めます。



■指標と評価方法の変更について

〈変更前〉指標「口腔機能を維持している者（基本チェックリスト該当者）」

評価方法：基本チェックリストにて、硬いものが食べにくいなど口腔機能に問題がなかった者の割合

〈変更後〉指標「口腔機能を維持している者（食べ物を食べるときに気になることが特にない者）」

評価方法：75歳以上を対象とした市健康づくりに関する意識調査にて、食べ物を食べるときに気になることが特にないと回答した者の割合

現状値：45.6% 目標：増加

変更理由：国の制度改正に伴う基本チェックリストの実施方法変更のため

■目標の変更について

指標「6024の達成者の割合」

〈変更前〉70%

〈変更後〉85%

変更理由：現状値が目標に達していたことから、県「健康おかやま21セカンドステージ」の現状値62.1%から目標70%以上までの増加率1.1倍に合わせて目標値を再設定（現状値 $77.2\% \times 1.1 = 84.9$ ：85%）

■指標の追加について

指標「妊婦歯科健診受診率」

現状値：16.5%

目標：増加

